

#### 第4回帯広市中小企業振興協議会議事録要旨

○ 会議は中小企業振興協議会、正副部会長会議、各部会等を合わせると40回以上に及び、従来であれば行政に任せる中小企業振興について手弁当で積み上げてきたノウハウは、これから先の地域の大きな力として残っていくだろう。

本日は、「議論の中間まとめ案」において他部会の内容に関して、再検討、項目追加など要望があれば意見交換をする。

○ ものづくり・創業部会について

創業することは素晴らしいと感じてもらえるような教育が重要であるということを目頭に記載した。教育が全てであると考えているからである。

失敗を乗り越えて成功した起業創業者に対して、依田勉三賞のような表彰制度を創設することについて記載した。具体的なものとして表に出したほうがわかりやすいためである。

○ 教育が重要であるという認識から目頭に記載するのであれば、それを受けて教育という視点も持ちその後に続く文章も変更してみるとよいのではないかと。

○ 交流部会について

個人的な人的ネットワークも重要。我々が知っている人へ一言、メッセージを送ってきてもらうなど、個人的なネットワークとはいえ数が集まれば大きな力となる。

○ 経営基盤人材部会について

中小企業への実態調査をするべき。実態調査をすることによって、会社が何を求めているのか、どこを改善すべきかが浮き彫りになる。中小企業者が相談してくるのを待っては手遅れになる。経営者は往々にして自社の現状を理解していないもの。第三者に診断してもらい初めて気がつくことも多い。そのため、改善の余地があるうちに積極的に関わっていくことが必要である。

○ これまでの協議会での議論をお聞きした上で、企業訪問をすれば、今までの見方と違う企業の見方をすることができる。そして、行政だけでなく、連携組織と一緒に企業を訪問しデータベース化していけば、次につながっていく。

ビジョンはそのままで意味がなく、常に進化をさせていくための材料づく

りである。

○ 経営基盤・人材部会について

ファンドについて。改めて、地域ファンドを組成することは、現実的には難しいと思う。そのため、既存のファンド（応援ファンド等）について認知してもらい、積極的に活用していくことがいい。

また、ファンドに関して一部販売中止となった工業団地敷地を民間ベースで賃貸するような、不動産の所有者とそれを活用する人の仕組み作りなど、ニーズの掘起こしが広く求められているのであればいいと思う。

○ 交流部会について

十勝圏に複数のブランド認証機関が存在するという点が、十勝のブランドとは何かという議論になった場合に混乱を生じるので一本化した方がよい。

○ 経営基盤・人材部会について

商店街のおもてなしについてだが、具体策として何が必要なのか交流部会と経営基盤・人材部会で連携して話し合った方がよい。

○ ブランドは十勝だけではなく北海道にもある。認証基準のハードルの高さが各々違う。一度整理しないとブランドつぶれになる恐れがあるし、名前ばかりブランドだらけになってイメージ悪化につながりかねない。

○ ブランドとは、あくまでも消費者が認知した段階をいう。たとえば、川西の長いものは地域ブランドといえる。しかし、十勝ブランドとは、消費者が認知しているかどうかは関係なく、十勝で生産されたものとして、安全安心を担保するために作られた意味合いが強い。そのため、ブランドという名前だから違和感があるように思える。十勝ブランドが消費者認知としてのブランドという意味ではないということを整理しておいた方がよい。つまり、認証なのである。

安全を認証するのか、原産地を認証するのか、認証は様々な基準で認証される。認証をどう整理するかという議論をした方が適切なのである。

ブランドが多くあったとしても、それを消費者が認知しているのであればいいが、認知されていないのにブランドという言葉を使うから混乱している部分がある。

○ ブランドとは企業が努力して作り上げていくもの。そのため、十勝という地域のブランドには違和感があり非常に難しい。

○ 観光という視点から見れば、例えば豚丼であればそれに応える豚肉は十勝ブランドだというふれ込みをすれば、食で観光ということが成り立つのではないかと思う。

○ 元々、物を売るためのイメージ戦略の一つとしてブランド化を考えた。もう一度地域でブランド化について、戦略として持ち得るのか、安心安全等の認証としてのブランドを持っていくのか整理した方がよい。

十勝として地域が一体となって物を売っていき、戦略として十勝一丸となっていこうとする地域は他には見られない。他ではブランドをほとんど見たことがないと思う。

○ 十勝についてのブランドを認証する機関としては財団、商工会議所、商工会連合会の三つがあり、解りづらいという声はあるが、どうやって整理できるのかが課題である。

○ 産業基盤について

産業基盤部会におけるテーマ

- ・ インフラについて産業集積の促進をどうするか（業種、場所等）、地元企業の高度化、地場企業の新規創業（雇用増等）について話し合う
- ・ 共同利用について産業支援機能、物流
- ・ 商農工連携をどう図るか。地域内の経済循環、産業連携を進めて、この地域をどう活性化するのか

中小企業振興基本条例の枠組みで考えていきたい。

経営基盤人材部会で話し合われているデータベースの整備は、各種の情報データベースの整備という観点では産業基盤にとっても大事なテーマである。

点ではなく面での整備が必要。土地所有者が事業をしていないということもあるので、地域ファンドを上手く活用し買い取るか、長期に借りるなどして面での環境整備を目指していく。

○ 企業誘致の効果的な案として特定産業に対する優遇措置を設ける特区がある。エネルギー関連の開発会社に対して優遇措置を取り集まれば、世界の先進地域となる。エネルギー関連の中小企業は全国に数多くある。

○ 3部会で横断的な共通テーマがある。どうするのか。

時間軸で短期的に実現可能なテーマもあれば、時間をかける必要のあるテーマ

マもある。そういう観点からも議論が必要。

○ 部会間の意見で類似性の高い項目があるので、今後議論を深めていく過程において束ねていくような取り組みが必要となると考えている。

短期的にできるもの、助走期間を置いて検討しなければスタートできないものが仕分けされてくることになると考えている。その中で短期的に取り組めるものについては優先的に次年度予算の候補にさせていただく。

○ 基本的に、大きく変わった意見はなかったので、各部会はこの「議論の中間まとめ案」の内容で取りまとめに入っていくこととする。